

第686回建設技術講習会 現場研修事業の概要

1 仙台市東部沿岸部の集団移転跡地利活用事業 [仙台市] …………… 仙台市若林区 荒浜地区

- ・東日本大震災の津波により、多くの方々が犠牲となり、多くの住宅も流出した仙台市東部沿岸地域。
- ・平成27年度より、「仙台市東部沿岸地域」の再生に向け「集団移転跡地」の「新たな土地利用」に係る事業に着手してきた。
- ・仙台の「新たな魅力の場」の創出に向け、広大な土地（約43ha）に、行政だけでは出来ない、市民や企業など民間の皆様が自由な発想で自ら取組む新たな土地利用を進め「海辺の新たなにぎわいづくり」が行われている。
- ・現在、18の跡地利活用事業者（約32.8ha）が決定、うち13事業者が事業を開始。
- ・地区内には、「震災遺構仙台市立荒浜小学校」や「震災遺構仙台市荒浜地区住宅基礎」もあり、震災の記憶や経験、地域の歴史や文化を広く発信している。



2 坂元・山寺復興道路 [宮城県] …………… 宮城県亶理郡山元町～亶理郡亶理町

- ・福島県相馬市松川浦から新地町、宮城県山元町を経て亶理町鳥の海地区までの仙台湾沿岸部を南北に結ぶ、全長 31.9km の主要幹線道路。
- ・沿線住民の暮らしを支えるとともに、地域産業である農作物や海産物などの物流や、観光交流など、地域間の連携を担う重要な路線。
- ・東日本大震災では、沿岸の市街地が壊滅的な被害を受け、各市町では復興まちづくりを進めてきており、県では山元町の復興まちづくり計画を踏まえ、山元町坂元から亶理町吉田までの 11.2km（山元町 11.0km、亶理町 0.2km）について、JR 常磐線の旧鉄道敷を活用した高盛土構造の道路を計画し、津波に対する防衛・減災機能を併せ持つ多重防御施設として、平成 24 年度から復興交付金事業（坂元・山寺復興道路）により整備を進めてきた。
- ・高盛土構造とすることによる、津波被害の軽減、横軸の避難路を縦に連絡する二次避難路・救出路として機能する防災道路ネットワークの構築を図った。
- ・ICTを活用した三次元起工測量、盛土転圧管理、法面整形により省力化・効率化が図られ生産性が向上した。
- ・令和3年3月に全線が開通し、令和3年度の全建賞を受賞。



3 阿武隈川緊急治水対策プロジェクト [東北地整] …………… 角田市佐倉地内

- ・令和元年台風第19号に伴う洪水により、阿武隈川では越水・溢水が発生し、本川上流部や支川では堤防決壊等が多数発生するとともに、本川下流部では大規模な内水被害が発生するなど、流域全体で甚大な浸水被害となった。
- ・国、県、市町村等が連携し、「浸水被害の軽減」、「逃げ遅れゼロ」、「社会経済被害の最小化」を目指す。
- ・プロジェクトでは、ハード整備として河川における治水対策の推進、ソフト対策として減災型都市計画の展開、地区単位・町内会単位での防災体制の構築、バックウォーターも考慮した危機管理対策の推進、市町村の実情に応じた減災の取り組みを実施。
- ・ハード整備では、掘削工事における生産性の向上、工事安全管理に寄与するICT技術活用の施工管理を取り入れており、現在、河道掘削中。

